

3-14 関東・東海地域における最近の地震活動（1980年5月－10月）

Recent Seismic Activities in the Kanto-Tokai Area

(May-October, 1980)

国立防災科学技術センター

National Research Center for Disaster Prevention

1980年5月より、新たに8観測点—銚子（CHS）、檜原（HHR）、駒ヶ根（KGN）、掛川（KGW）、串原（KSH）、茂木（MOT）、韮山（NRY）、下山（SMY）—を加え、計26観測点（第1図参照）によって求められた1980年5月－10月の期間における関東・東海地域の地震活動について報告する。

第2図は各観測点での日別地震回数、第3図は月別震源分布図である。前号に掲載した1980年4月以前の震源分布図¹⁾に比較して5月には震源決定数が倍増しているが、これは新設点のデータが加わったためであり、この時期に特に地震活動が活発化したわけではないことが第2図から推察される。全体に震源決定率が向上しているが、特に静岡・愛知でこの傾向が著しい。

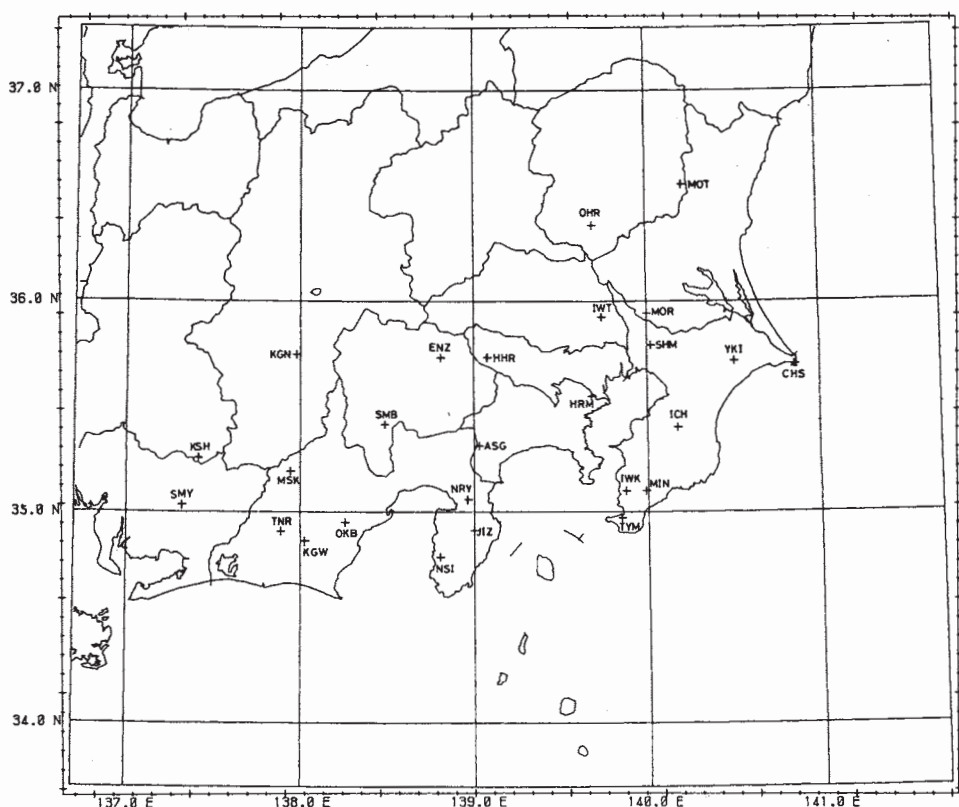
1980年6月23日より伊豆半島川奈崎沖に群発地震が起り始め6月29日16時20分に伊豆半島東方沖の地震（気象庁マグニチュード $M = 6.7$ ）が発生した。群発地震は消長を繰り返し、8月にはほぼ収まったが、その名残りは10月になってもまだ見られる。対照的に5月には伊豆半島近辺には地震活動の見られないことが注目される。この間の観測結果の詳細については大竹・他²⁾を参照されたい。なおこの群発地震については、主要なもののみ抜きとって震源決定を行った（マグニチュードの下限は約2.8）

1980年9月には比較的大きい地震が3回発生しており（伊豆半島沖南方（ $34^{\circ}\text{N}, 139^{\circ}\text{E}$ ）：9月10日7時20分， $M_{\text{F-P}} = 5.6$ 。埼玉・茨城・千葉県境付近：9月24日4時10分， $M_{\text{F-P}} = 5.9$ 。千葉県中部：9月25日2時54分， $M_{\text{F-P}} > 5.6$ ），観測点別の地震回数グラフでも目立ったピークを示している。9月10日の地震は主震数時間前から前震を伴っていた。

そのほか、この間の地震活動が注目される地域として、御岳山付近、山梨県東部、静岡県中西部及び浜名湖付近、川崎、埼玉県中部、古峰ヶ原付近などがあげられる。

参 考 文 献

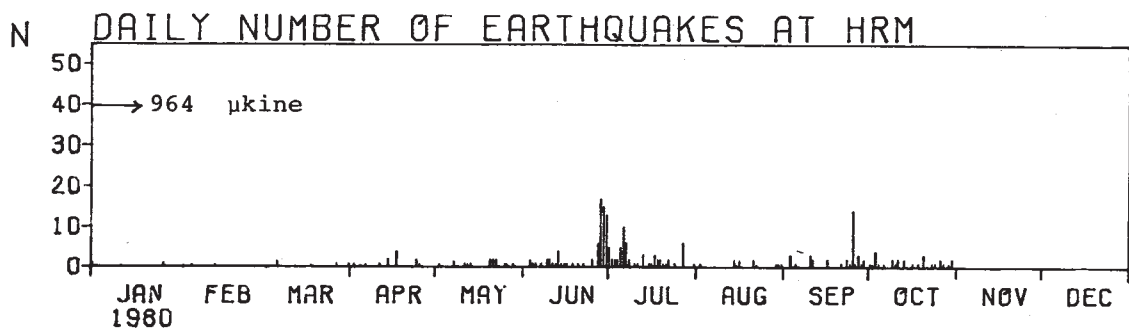
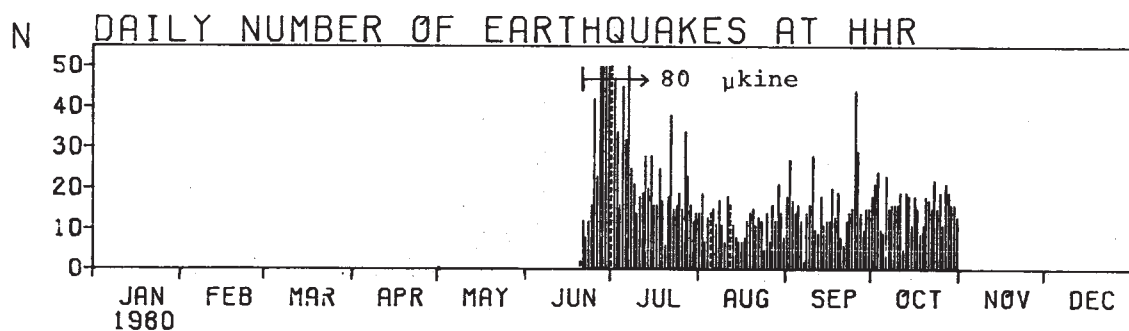
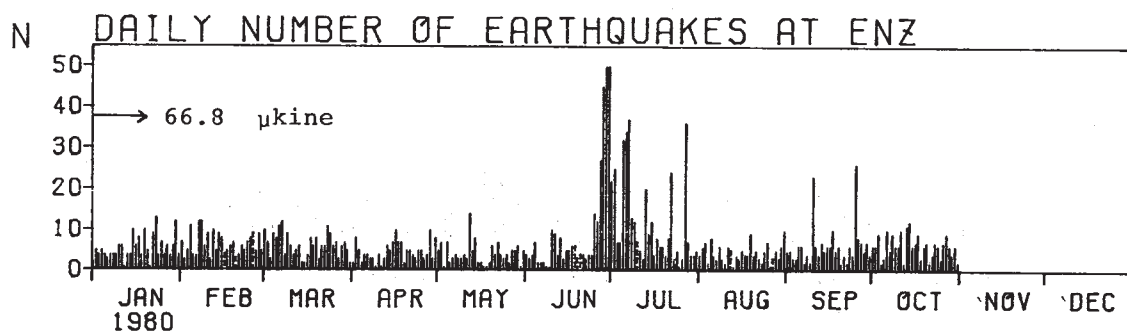
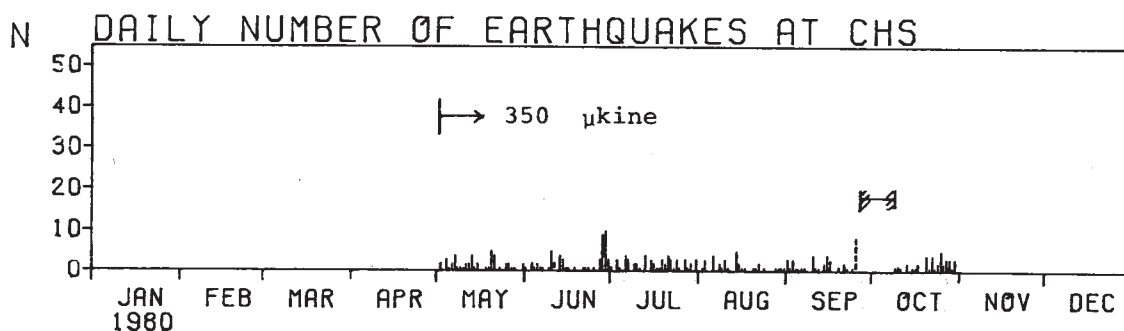
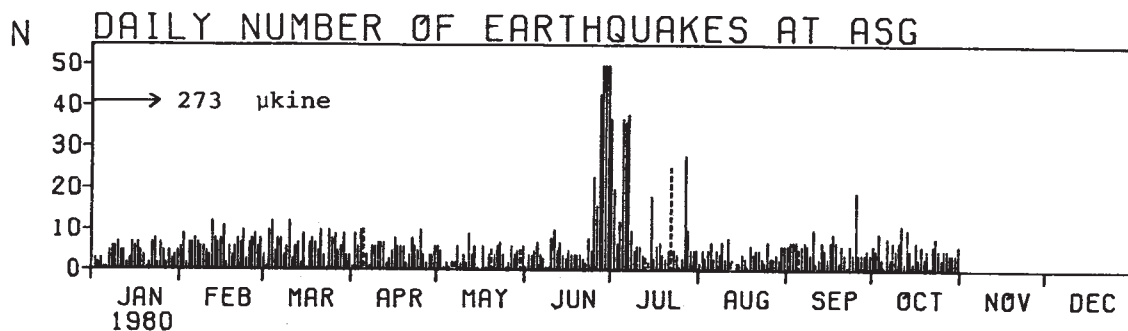
- 1) 国立防災科学技術センター：最近の関東・東海地域における地震活動（1979年11月－1980年4月），連絡会報，**24**（1980），53－59.
- 2) 大竹・他：伊豆半島東方沖の地震（1980年6月29日）とその前後の地震活動，国立防災科学技術センター研究速報，**43**（1980），1－25.



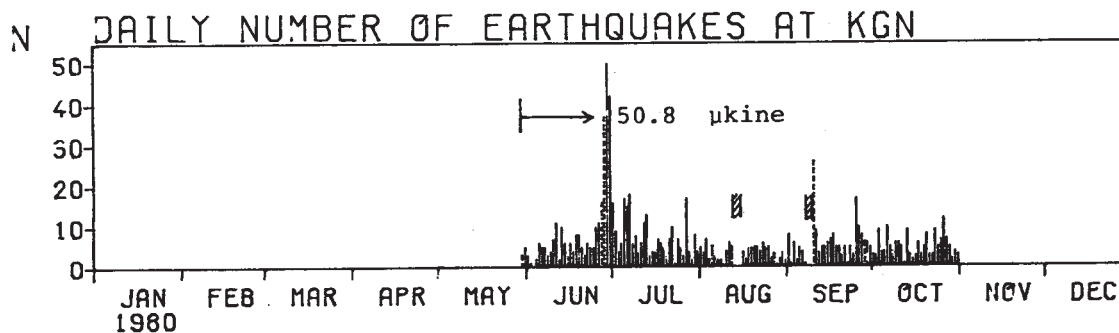
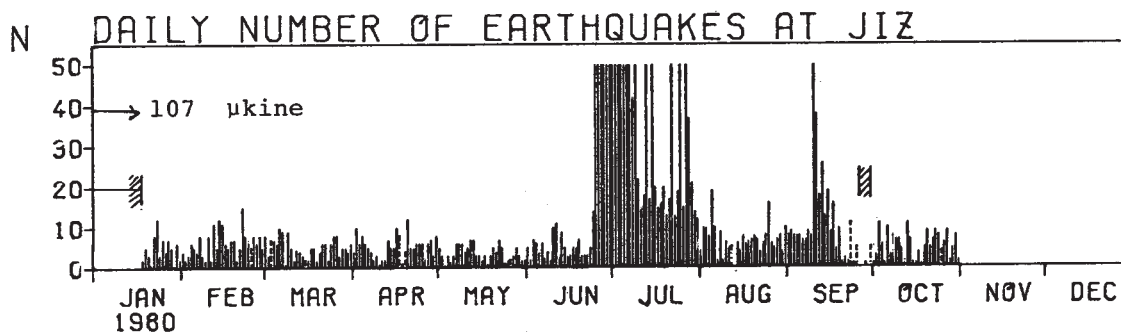
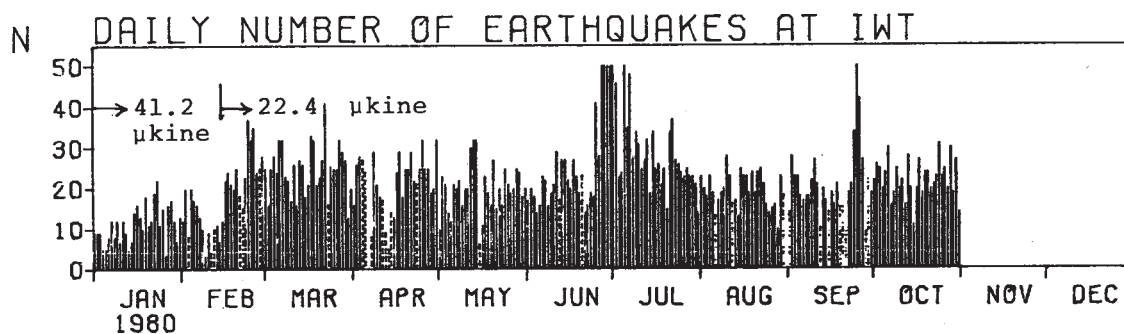
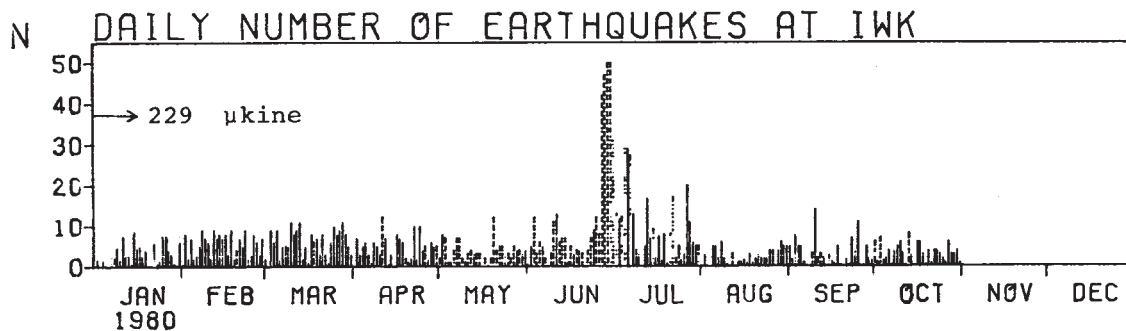
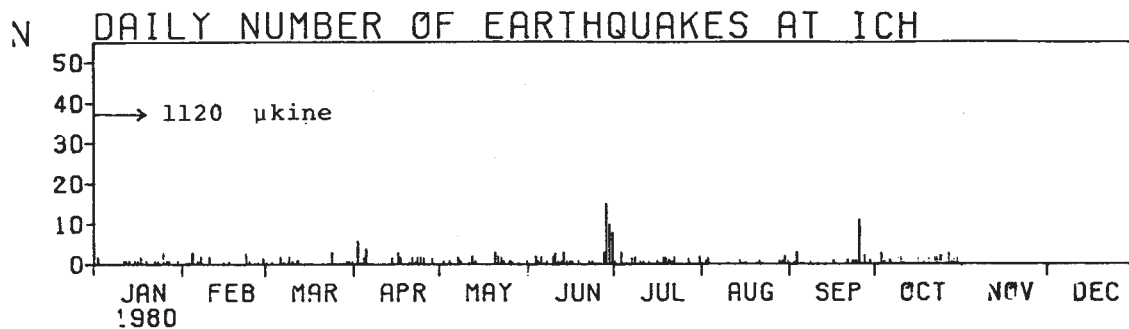
CODE	NAME	LATITUDE (DEGREE)	LONGITUDE (DEGREE)	HEIGHT (KM)	GAIN (MICROKINE/KM)
ASG	MINAMIASHIGARA	35.3138	139.0279	0.386	68.3
CHS	CHOSHISHI	35.7022	140.8550	-0.042	87.5
ENZ	ENZAN	35.7360	138.8053	0.807	16.7
HHR	HINDHARA	35.7353	139.0764	0.555	20.0
HRM	KAWASAKI	35.5506	139.6792	-0.536	482.0
ICH	ICHIHARA	35.4009	140.1768	-0.146	280.0
IWK	IWAI-KITA	35.0981	139.8714	0.000	53.1
IWT	IKATSUKI	35.9258	139.7381	-3.501	20.8
JIZ	NAKAIZU	34.9129	138.9968	0.263	26.7
KGN	KOHAGANE	35.7518	137.9719	0.629	12.7
KGW	KAKEGAWA	34.6626	138.0222	0.069	23.4
KSH	KUSHIHARA	35.2576	137.4088	0.343	12.5
MIN	KINEOKA	35.1019	139.9908	0.100	43.5
MOR	MORIYA	35.9425	140.0044	0.001	859.0
MOT	MOTESHI	36.5535	140.2167	0.140	39.1
MSK	HISAKUBO	35.1934	137.9391	0.754	16.6
NRY	NIRAYAMA	35.0599	138.9628	-0.091	40.3
NSI	NISHIZU	34.7870	138.8040	-0.422	17.8
OHR	OHIRA	36.3600	139.6924	0.250	31.6
OKB	OKABE	34.9500	138.2538	-0.030	12.4
SHM	SHIMOHSA	35.7934	140.0238	-2.277	11.1
SMO	SHIMODE	35.4157	138.4834	0.202	16.2
SMY	SHIMOMIYA	35.0365	137.3155	0.303	11.9
TNR	TENRYU	34.9078	137.8252	0.066	17.2
TYM	TATEYAMA	34.9708	139.2481	0.030	170.0
YKI	YOKKAICHI	35.7185	140.5088	-0.142	251.0

第1図 防災センターの観測点分布

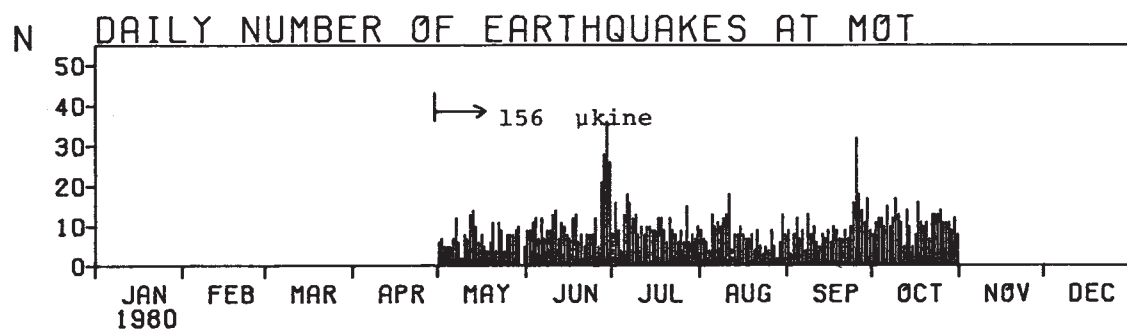
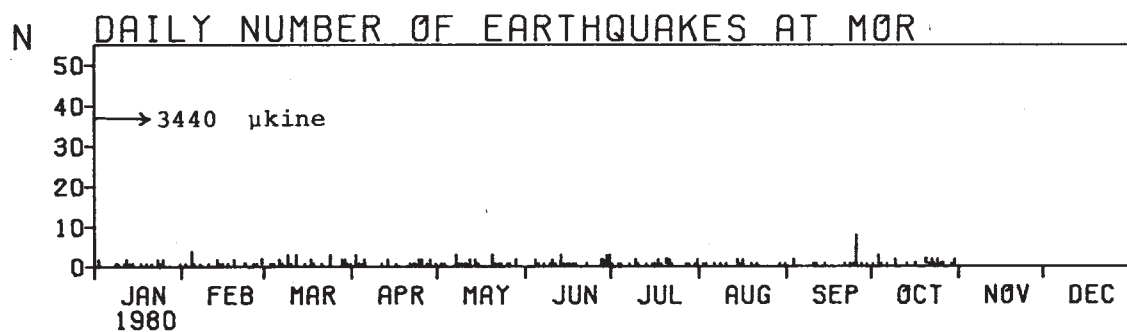
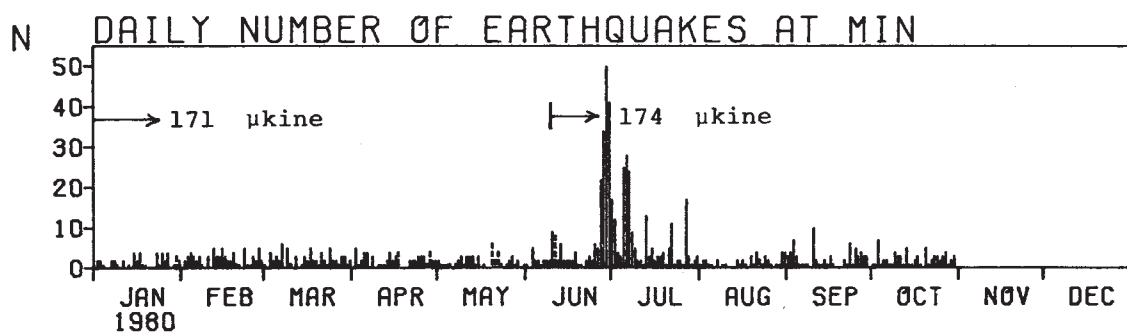
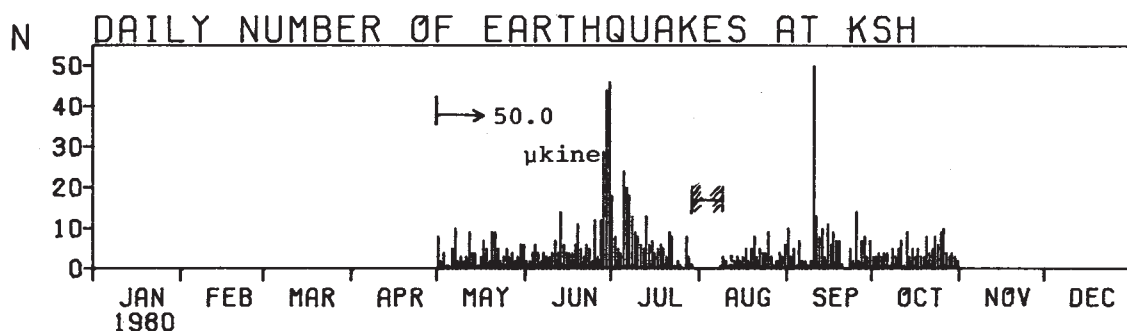
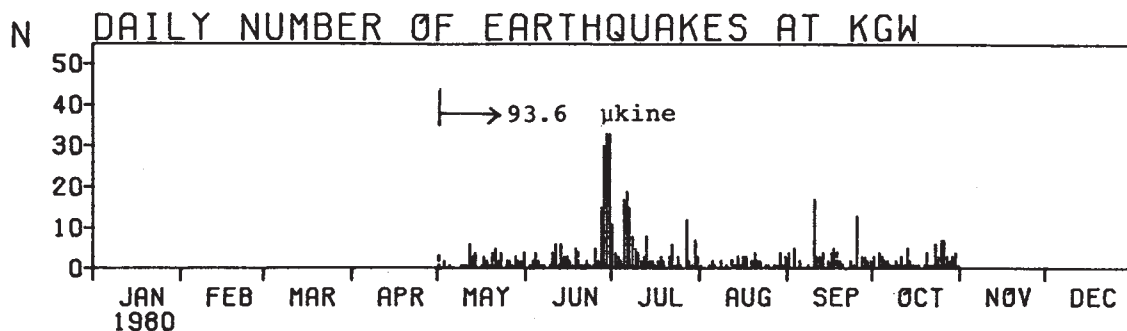
Fig. 1 Distribution of the NRCDP stations.



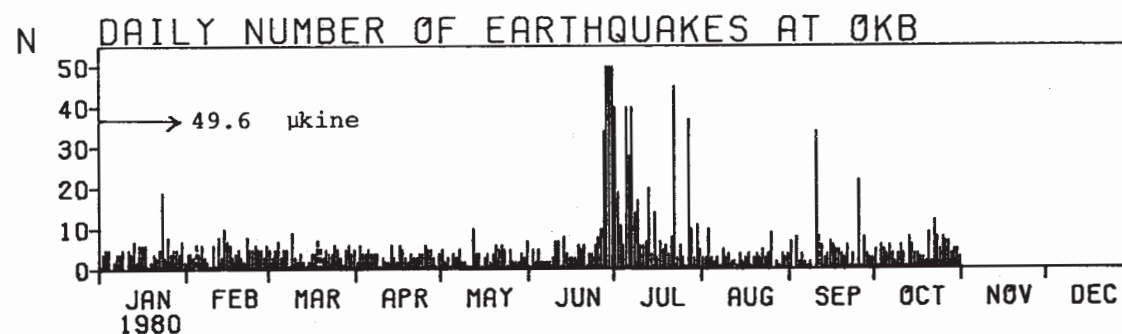
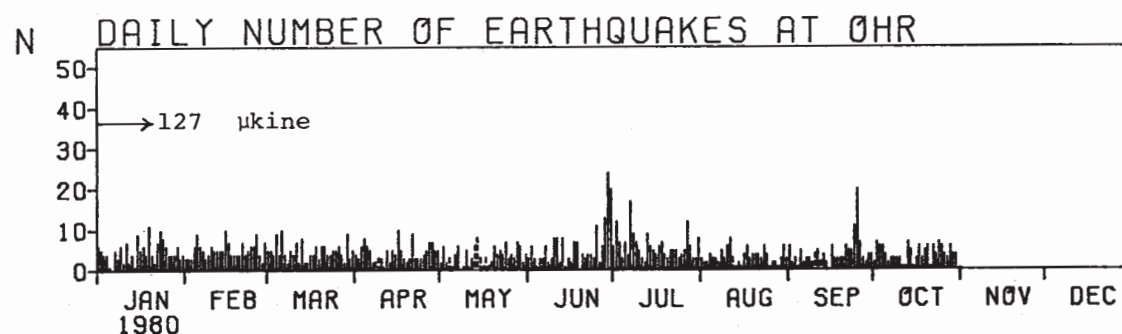
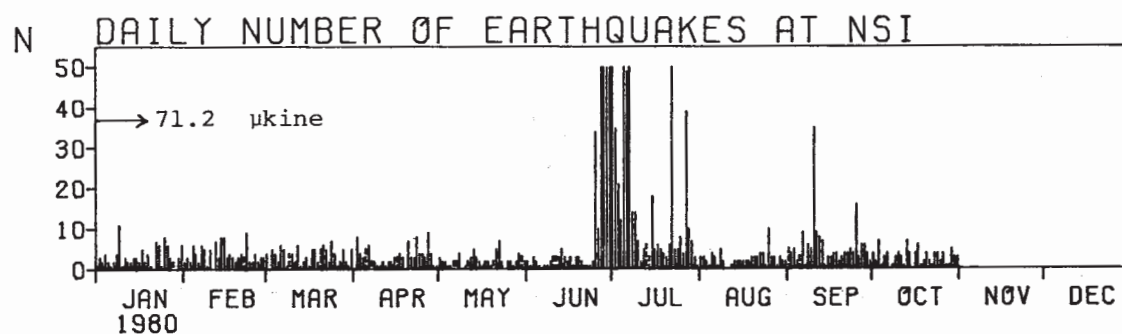
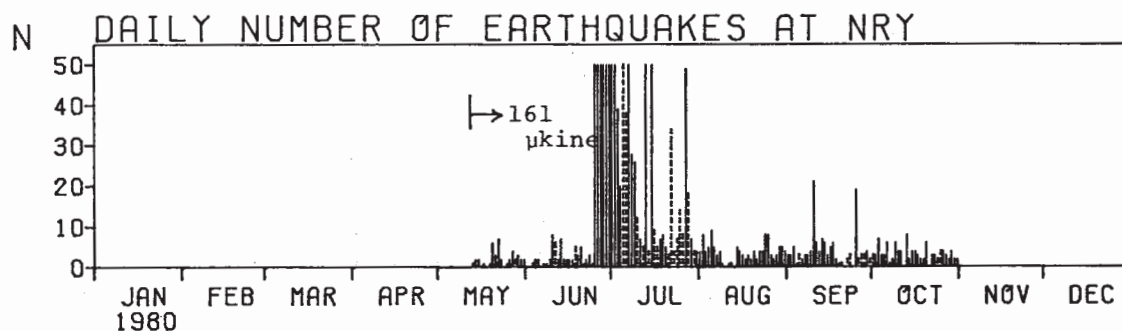
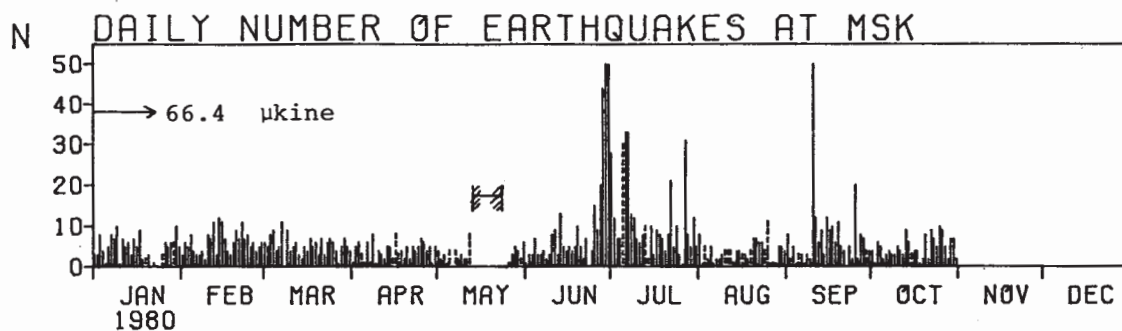
(1)



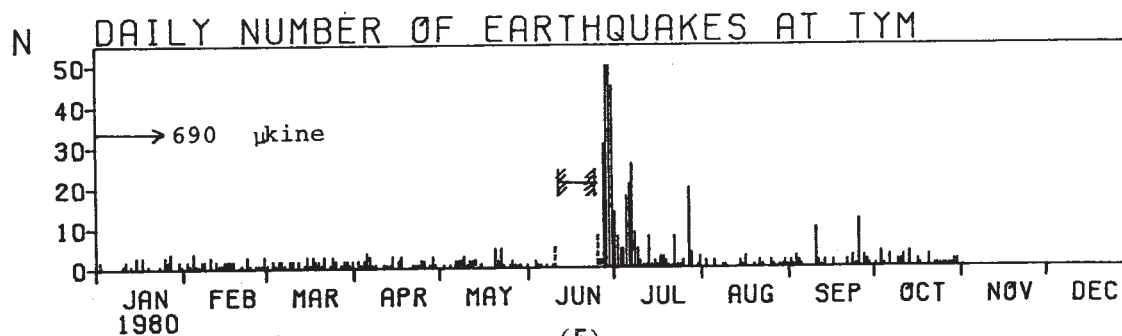
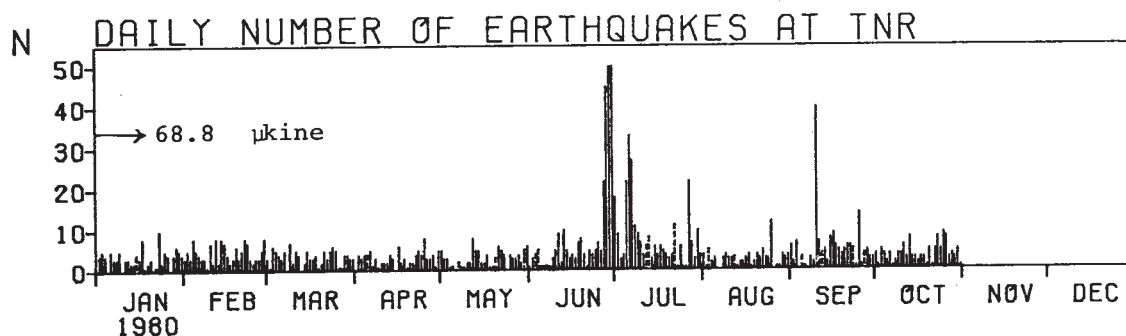
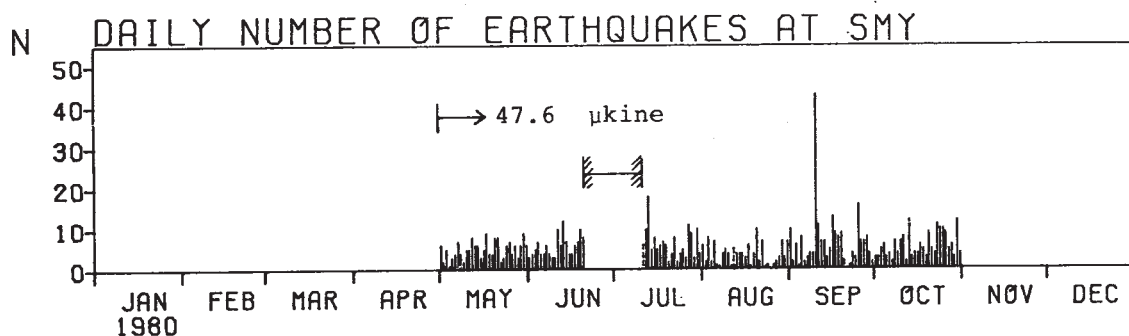
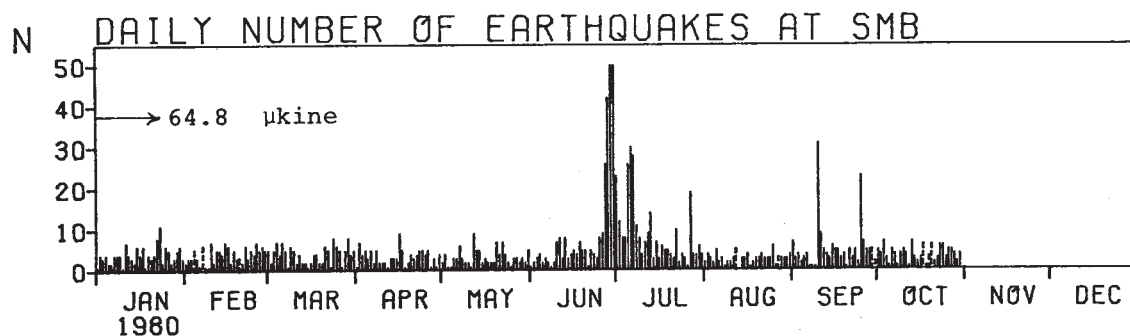
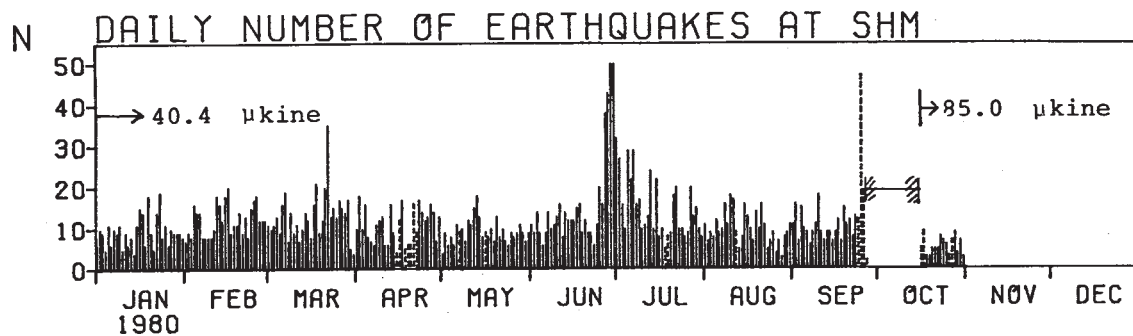
(2)



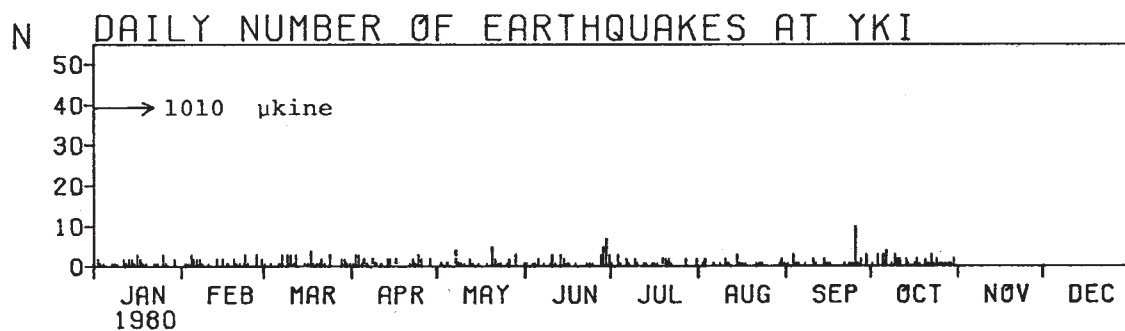
(3)



(4)



(5)

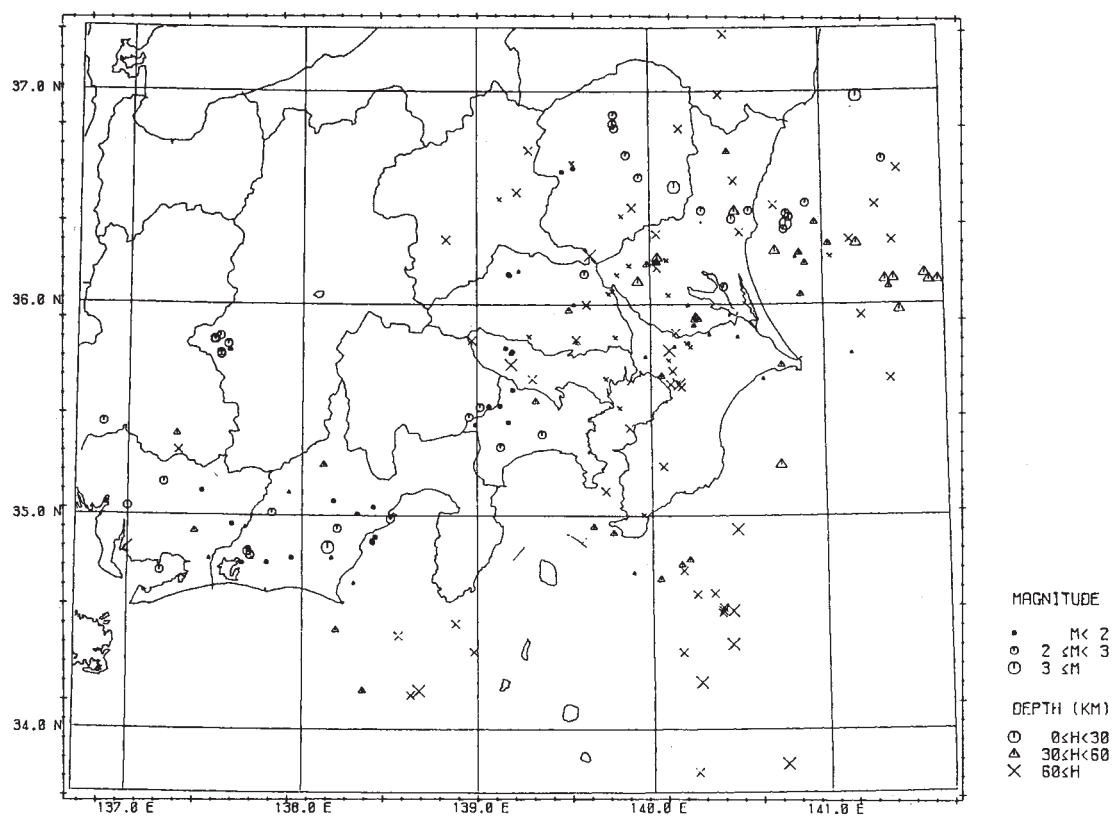


(6)

第2図 日別地震回数。数値は片振巾の値で地震計数時のスレッシュホールドレベルを示す。
 ≡ : 長期欠測, 1日以内の欠測は破線, 大平(OHR)のみ06:00 - 18:00を除いた半日の計数。

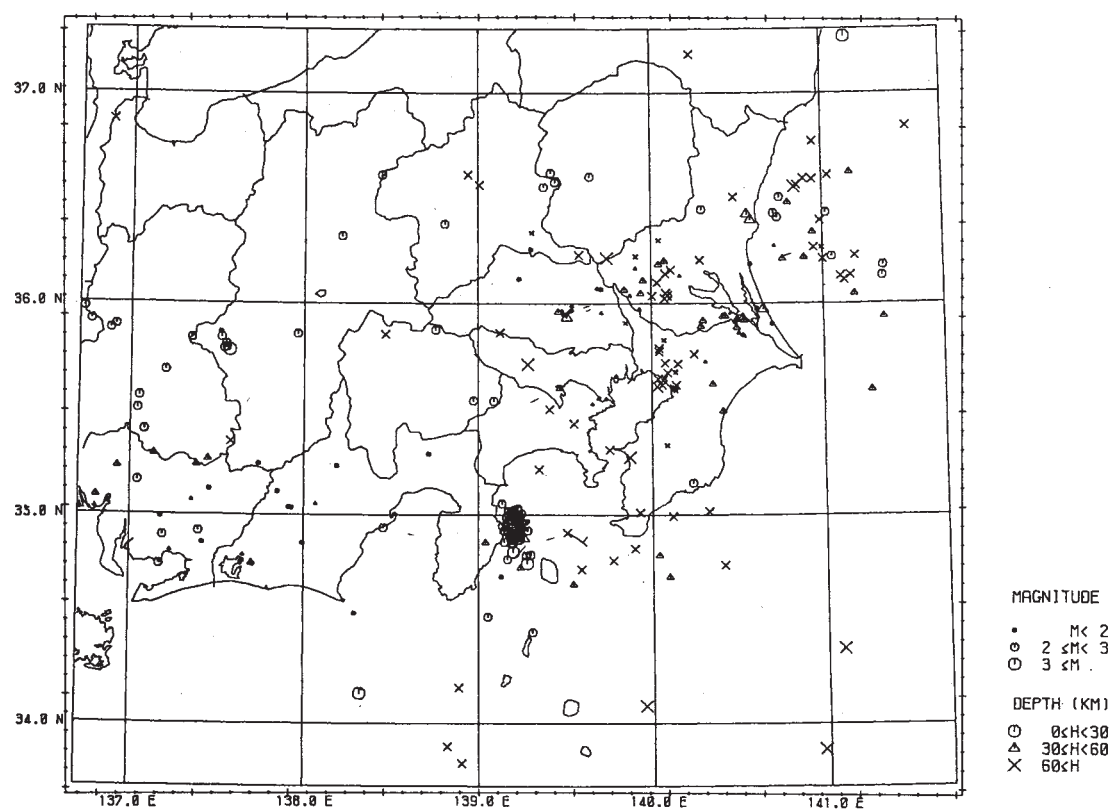
Fig. 2 Daily frequencies of earthquakes.
 Numerals are threshold levels of amplitudes for counting the number of earthquakes.
 Only at OHR, the shocks from 06:00 to 18:00 are omitted from counting to eliminate quarry blasts.
 Broken bars mean that there are partial breaks in observation.
 ≡ : No record (long period).

1980 05 01 - 1980 05 31 N= 197

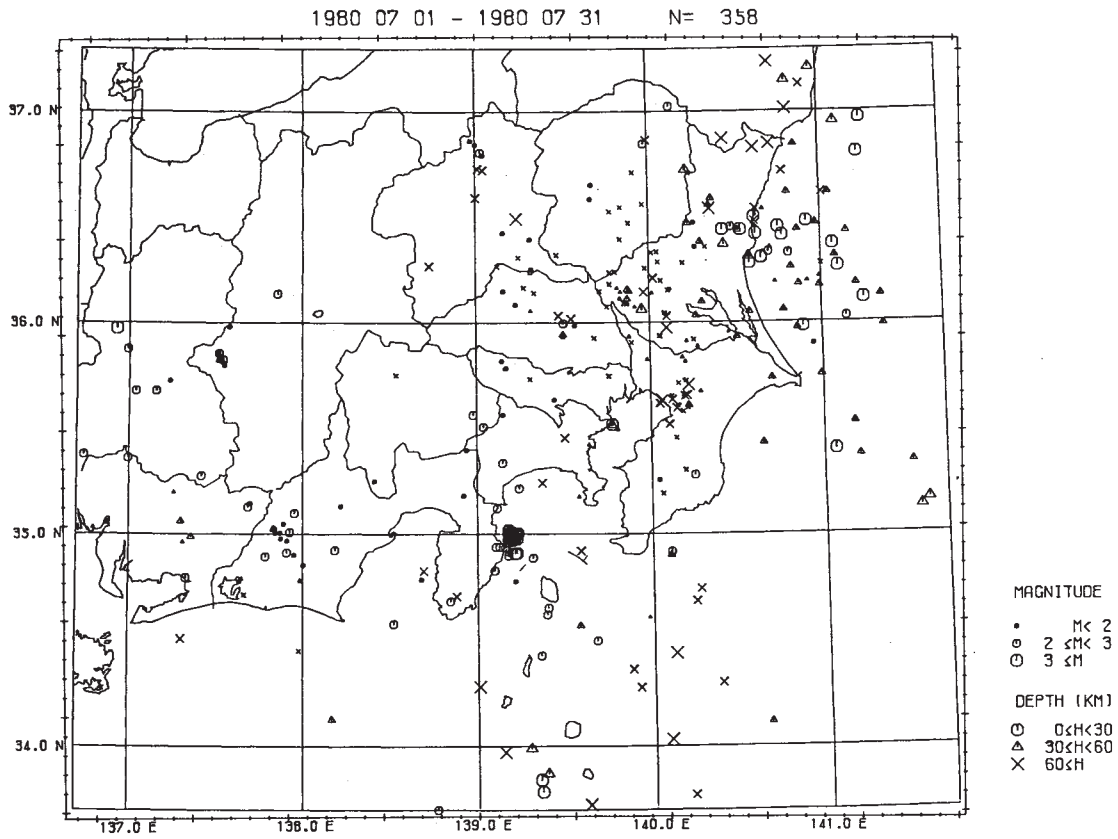


(1)

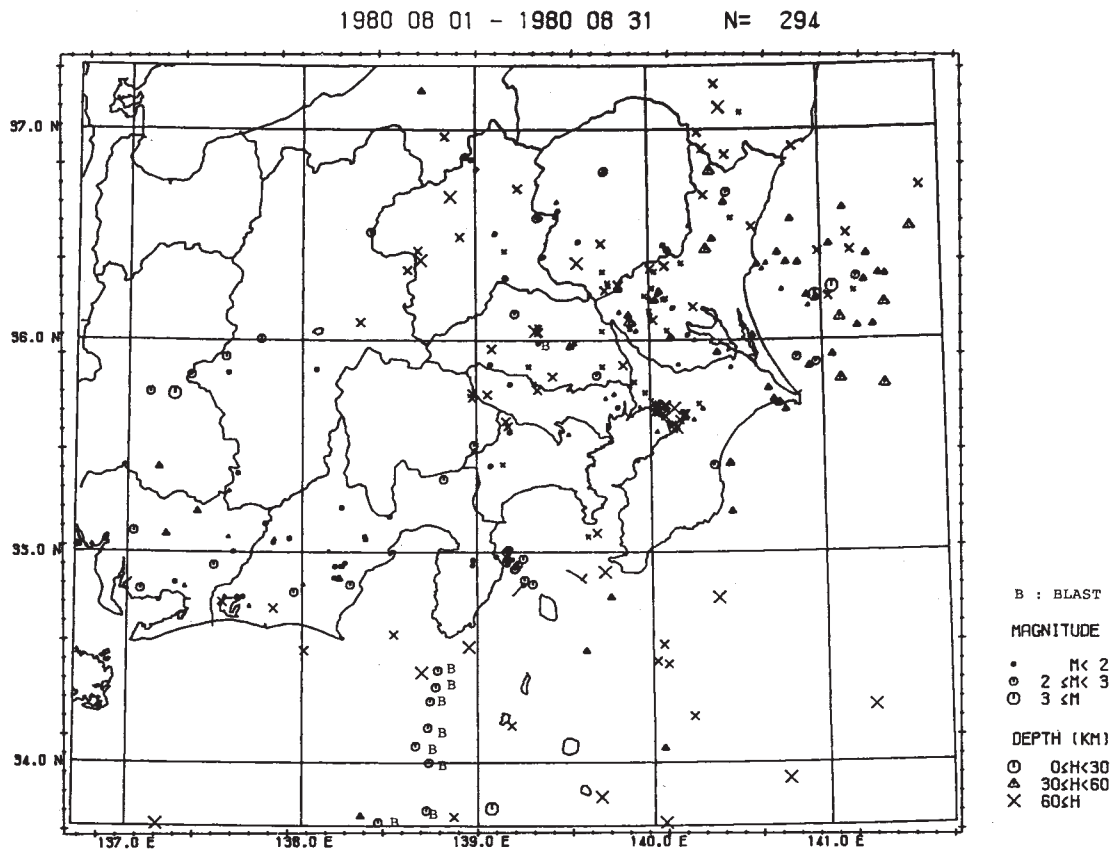
1980 06 01 - 1980 06 30 N= 338



(2)

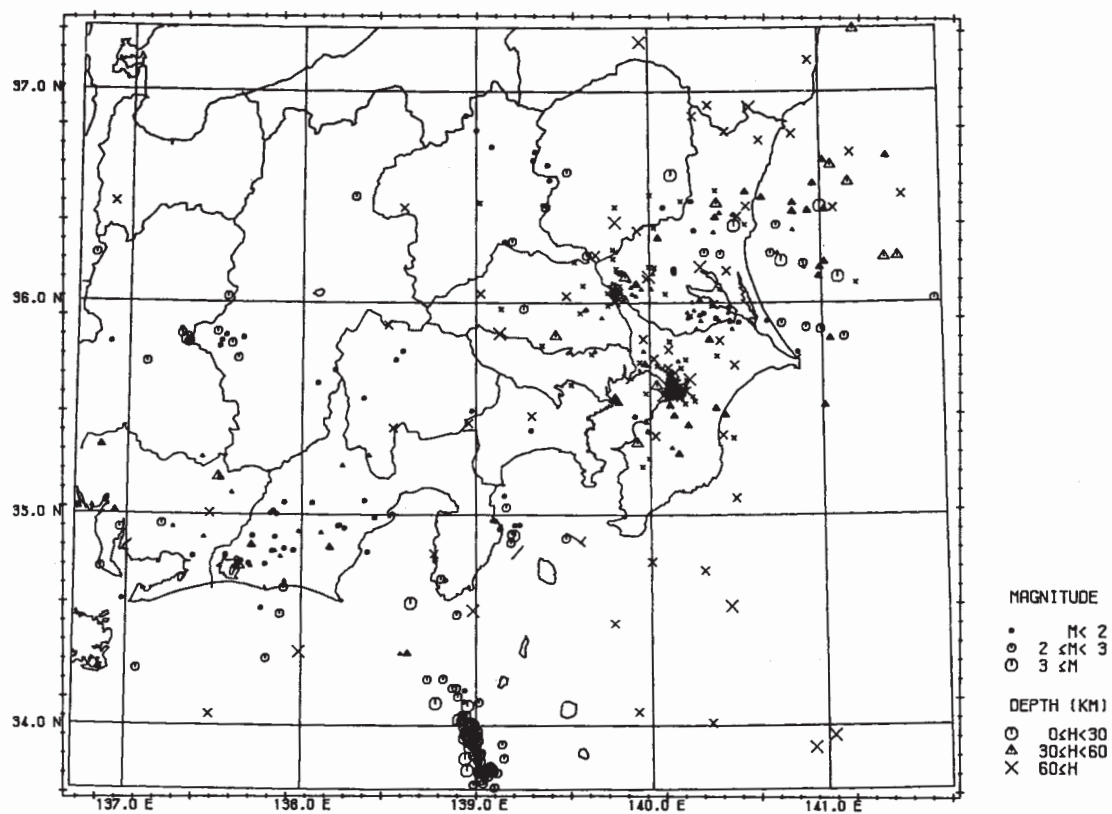


(3)



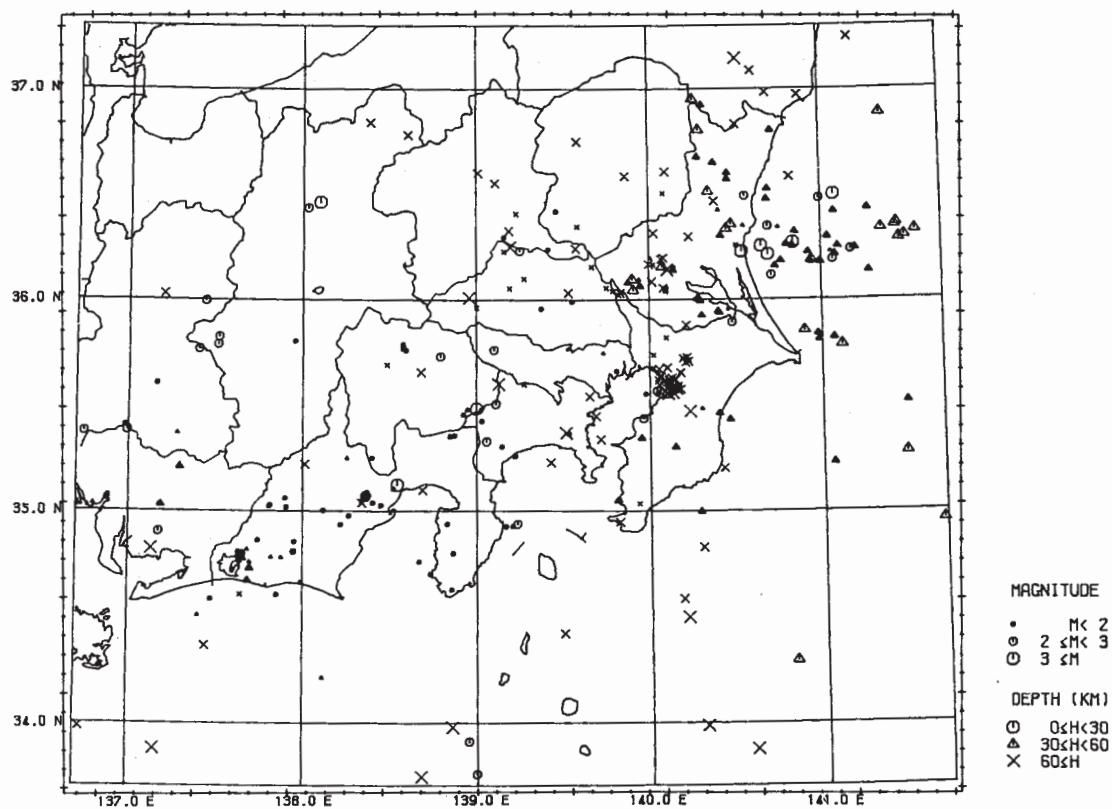
(4)

1980 09 01 - 1980 09 30 N= 482



(5)

1980 10 01 - 1980 10 31 N= 335



(6)

第3図 防災センター観測網による震源分布

Fig. 3 Hypocentral distribution determined by the NRCDP network.